



官能人肉食小説

「シャドウムーン」

大黒達也

『シヤドウムーン』

作者 大黒達也

一．あらすじ

ある日、ふとしたきっかけで知り合った女を、暴力団から助け出すべく立ち上がったサラリーマンの戦い。性交奴隷に落とされ、薬をうたれ、獣のように犯され最後には食肉として調理され貪り食われる若くて美しい女。官能的なレイプシーンや銃撃シーンが満載。

二．登場人物

大黒 達也（オオグロ タツヤ）

サラリーマン、家族とは別居中

柴 紀子（シバ ノリコ）

旅行者、謎の女

原 美樹（ハラ ミキ）

柴 紀子の姉、フリーライター

岩崎 順子（イワサキ ジュンコ）

スナック順子のママ

権藤 龍一（ゴンドウ リュウイチ）

1 人身売買組織を運営する暴力団の組長

村瀬 昭雄（ムラセ アキオ）

権藤組の若頭、冷酷非情な性格の持ち主

ルスコイ

謎のロシア人、大黒の協力者

イリーナ

バー‘ロシアンルーレット’の女主人

『本編』

第一章 プロローグ

そこは広さが二十畳ほどもある寝室で、中央には巨大なダブルベッドが鎮座していた。

ベッドの上では、二十代半ばに見える全裸の女が、全身に刺青をした筋骨逞しい数人の男達に裸身を手や口で舐られていた。

女は高級モデルも及ばぬ程の美貌とスタイルの持ち主であった。

女は、仰向けの姿勢で、若い男の顔に豊かな尻を載せており、アヌスを舐られていた。

また、股間にはひとりの中年男が張り付いて、激しい勢いで膣を舐っていた。

両乳房は二人の男に音を立てて吸われていた。

口には別の男が、真珠入りの男根を突き入れられ、喉を犯されていた。

女は既に何度も逝かされていた。憔悴のためか意識が朦朧としているようだった。

男達による陵辱は、その後数時間も続いた。

3 途中で女が意識を失っても開放されることはなく、

人形のような白い肉体に何度も欲望の液体を注ぎ込まれた。

それからさらに数時間が経過した。女は意識を失った状態でバスルームに運び込まれ、待機していた若い女に全身を洗い清められた。

女は途中で意識を戻したが、憔悴のために起き上がることもできなかった。

裸身を清められた後で、窓が無い手術室のような場所に運ばれた。部屋の中央にはひとつの手術台が置かれていた。

部屋には三十代半ばの医師と二十代前半と思われる看護師がいた。二人ともマスクをしているので、表情は読み取れなかった。

女は、もうひとつのベッドに横たえられた。

看護師が小型の注射器を医師に手渡した。

注射器を見た女が、医師の腕を掴み、必死に命乞いを始めた。大粒の涙を流し、家族と思われる

4 者の名前を何度も口にした。医師は女を完全に無

視していた。女の手を乱暴に払いのけ、看護師が腕を押さえている間に、腕に注射針を刺した。すぐに女の動きが緩慢になり、目を閉じ動かなくなつた。

看護師は機械的な動作で、医師に手術用のメスを手渡した。医師は間髪を入れずに、麻酔薬で眠らされた女の胸にメスを突き立てた。

少しして、医師は胸部を切開された女から心臓を抜き取つた。

医師は脈動している心臓を保冷容器に入れ、慌しく部屋を出て行った。すぐにヘリコプターのエンジン音が聞こえてきた。

手術室には看護師と女の遺体が残された。すぐに先ほどまで、女を陵辱していた男達がやってきて、女の遺体を黒色のビニール袋に入れて外に運びだした。

建物の外は深い原生林の森が広がっていた。

男達は女の遺体を軽トラックの荷台に載せ発進

させた。

数キロほど離れた養豚所に運び込んだ。

男達は、豚舎の中で女の遺体を持ち上げ、盛り上がった白い尻から巨大なミキサーに押し込み、電源を入れた。機械音とともに女の遺体がミキサーの中に吸い込まれていく。数分で生前は多くの男達を魅了したであろう極上の肉体が細切れにされ、ミンチ肉になった。

ミンチ肉を豚の餌に混ぜて、数十頭の豚に与えた。豚には丸一日、餌を与えておらず、女のミンチ肉が入った餌に齧り付き鼻を鳴らしながら食った。

三日後、男達は女の肉を食べた豚を一頭持ち帰り、隠れ家と原生林の合間に作られた芝生の庭で、豚を屠殺し、炭火で丸焼きにし、バーベキューパーティーを楽しんだ。

第二章	幻の女
第三章	捜索
第四章	陵辱
第五章	イリーナ
第六章	救出
第七章	潜伏
第八章	覚醒
第九章	襲撃
第十章	人肉の宴
第十一章	最後の晩餐
第十二章	エピローグ

完